令和６年９月　教育委員提案

ＩＲＴを活用した子供の学力の伸び率について

戸田市教育委員会

教　育　政　策　室

埼玉県学力・学習状況調査について①

目　的

　児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

調査の対象

　県内市町村教育委員会、小・中学校及び義務教育学校並びに小・中学校及び義務教育学校に在籍する児童生徒

埼玉県学力・学習状況調査について②

調査の内容（児童生徒に対する調査）

（１）教科等

実施学年	調査の内容	
小学校４年生から６年生	国語・算数	質問調査
中学校１年生	国語・数学	
中学校２年生から３年生	国語・数学・英語	

※出題範囲は、調査を受ける前の学年までに学習した内容

（２）調査のスケジュール

令和６年４月２４日（水）から５月２２日（水）

令和６年度から県内全ての学校がCBTで調査を実施

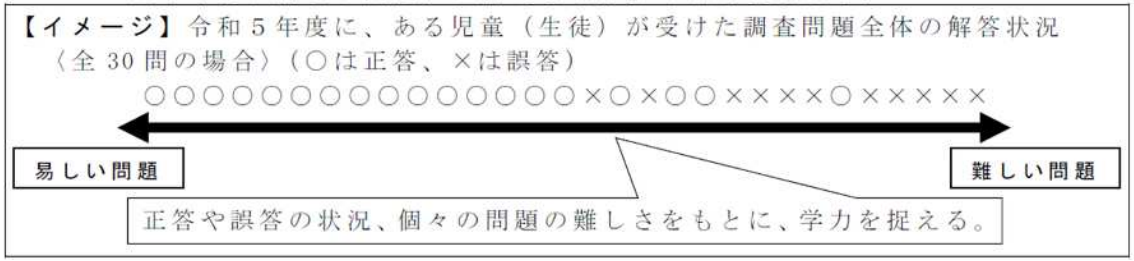
※CBT…一人一台端末を活用した調査

ＩＲＴについて

IRT…Item Response Theory ＝項目反応理論

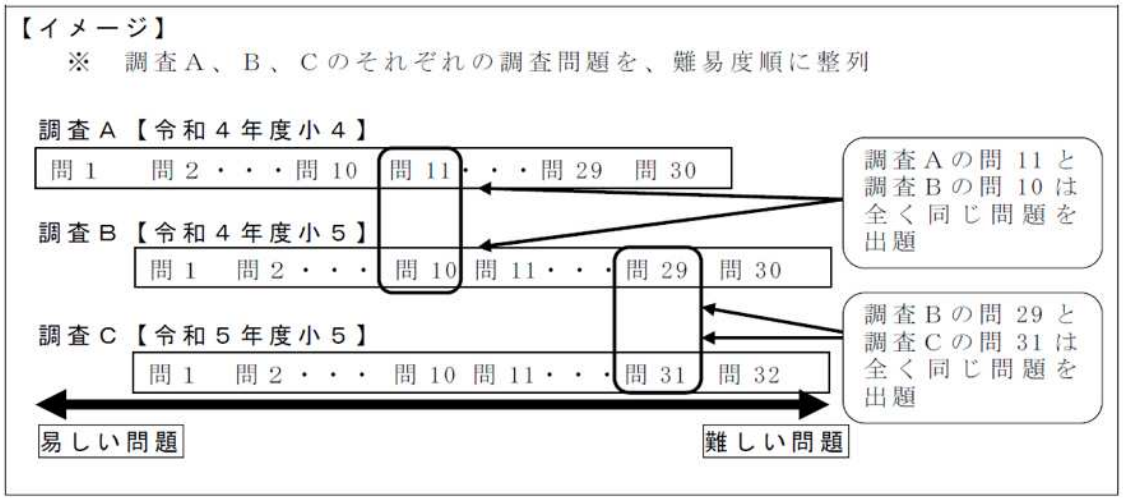
（１）　本調査における学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉える。



（２）　年度や学年で、異なる内容の調査結果を比較するための工夫

それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への正答や誤答の状況を手掛かりとして、すべての問題について「難しさ」を比較する。



IRTを使用した調査
- **TOEFL**
- **情報処理技術者試験**
- **PISA調査（OECD）**

等

問題は非公開
子供たちの学力を図るために年度をまたいで同じ問題を出題する可能性があるため。

出典：https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/r5gakutyouhoukokusyo/r5gakutyouhoukokusyo.html

埼玉県と全国の学力・学習状況調査の違い

埼玉県学力・学習状況調査	項目	全国学力・学習状況調査
小学校４年～中学校３年	対象	小学校６年、中学校３年
個々の子供たちの**学力の伸び**や**非認知能力等の把握**から、教育施策や指導の工夫改善を図り、**一人一人を伸ばす**。	ねらい	**義務教育の機会均等**や**水準の確保の検証**。学校における**児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善**等に役立てる。
非公開 子供たちの学力を図るために年度をまたいで同じ問題を出題する可能性があるため。	問題	**公開** 学習指導要領が目指す資質・能力の育成を踏まえた、具体的なメッセージ。
昨年度からの**「学力の伸び」や学習方略・非認知能力**に基づいて、授業改善の資料とする。	結果の取扱い	**全国や県の平均正答率**が公表されるので、各市町村や各学校は、それぞれの状況を把握する。
県主催の市町村向け活用法研修会を実施。各教科の結果や意識調査の結果をまとめた報告書を作成。	解説・資料報告集	報告書に出題の趣旨、解説、回答類型等が記載。授業アイディア例も作成。

埼玉県学力・学習状況調査の特長①

小４から中３まで、同じ子供を継続的に調査

＜個の学力の伸びを把握できる＞



						国語			算数・数学		
						R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル
					学校平均						
R6在籍情報					市町村平均	7-C	1	6-A	6-B	1	6-C
個人番号	学年	組	出席番号	性別	埼玉県平均	7-C	0	7-C	6-B	1	6-C
						8-C	0	8-C	9-B	4	8-C
						4-B	0	4-B	3-A	0	3-A
						7-C	4	5-A	5-C	0	5-C
						4-B	1	4-C	3-C	1	2-A
						6-B	1	6-C	5-A	3	4-A
						8-C	1	7-A	8-A	2	7-B
						8-C	7	5-A	7-A	3	6-A
						5-A	2	5-C	7-C	1	6-A

帳票40（参考）

埼玉県学力・学習状況調査の特長②

異なる学年、異なる年度の調査でも比較可能



- 各問題の難易度を設定
- A・Bに同一問題を入れる（問題は非公表）

※学力を測るものさし【有】

学力の経年変化、**測定可**

埼玉県学力・学習状況調査の特長③

非認知能力や学習方略にも注目

認知能力

いわゆる学力であり、たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握等

非認知能力

認知能力ではない能力全般

（県学力・学習状況調査で測っている非認知能力の例）

一部の学年	自制心	イライラしない 心の平静を保てる　など
全学年	自己効力感	自分への自信
一部の学年	勤勉性	やるべきことをきちんとやる　など
一部の学年	やりぬく力	粘り強い、根気がある　など
一部の学年	向社会性	他者を助けようとする

学習方略とは…学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

柔軟的方略
学習の仕方を自分の状況に併せて柔軟に変更していく活動
＜状況＞
勉強の順番を変えたり、わからないところを重点的に学習したりする　など

プランニング方略
計画的に学習に取り組む活動
＜状況＞
勉強を始める前に計画を立てる　など

作業方略
ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動
＜状況＞
大切なところを繰り返し書く　など

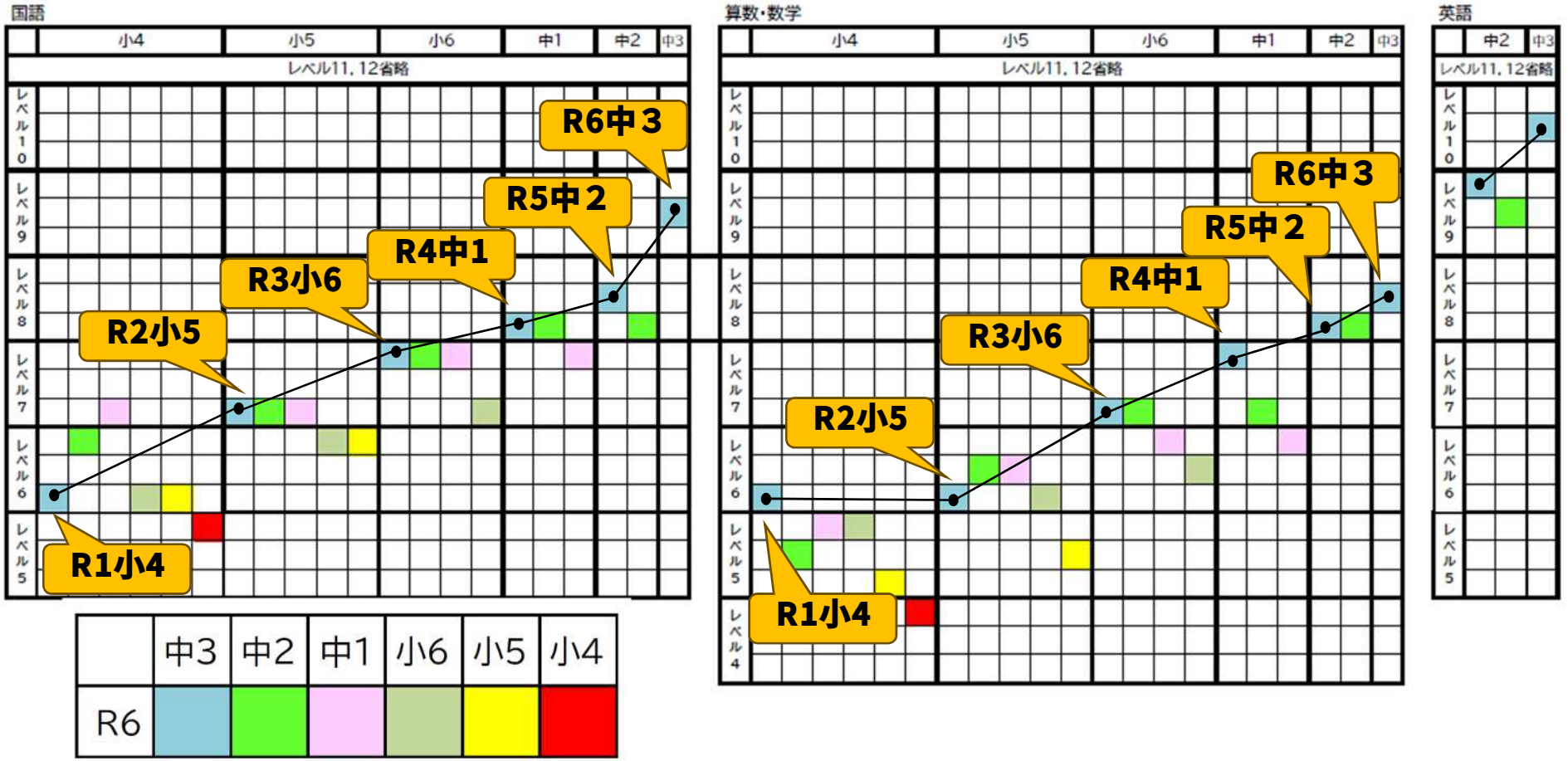
認知的方略
より自分の理解度を深めるような学習活動
＜状況＞
勉強した内容を自分の言葉で理解する　など

努力調整方略
「苦手」などの感情をコントロールして学習して学習への動機を高める活動
＜状況＞
わからないところもあきらめずに継続して学習する　など

※埼玉県学力・学習状況調査で測っている学習方略

戸田市の子供の学力の経年変化について

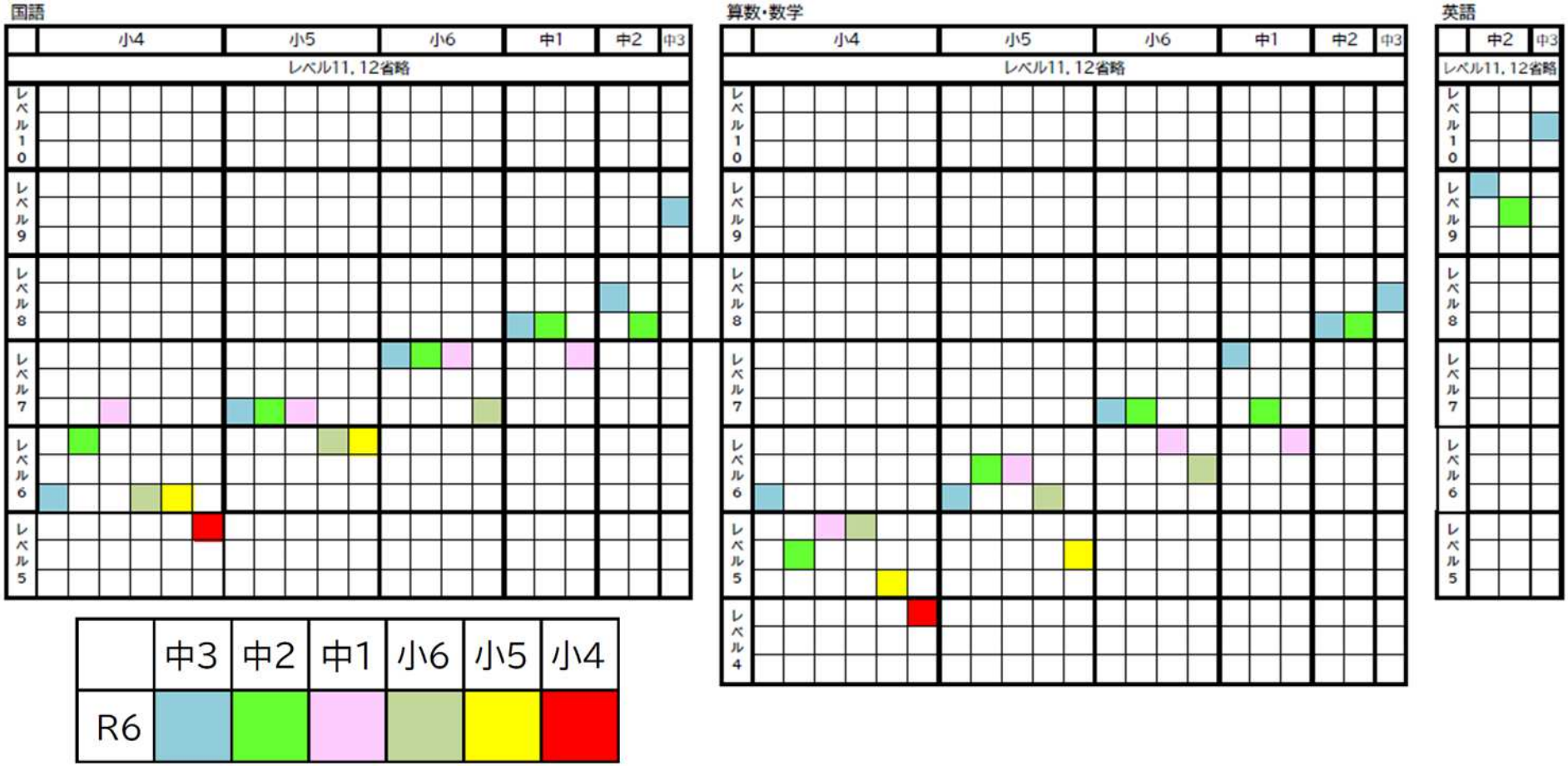
R1～R6の学力のレベルの推移



現中３生の「学力のレベル」の経年変化

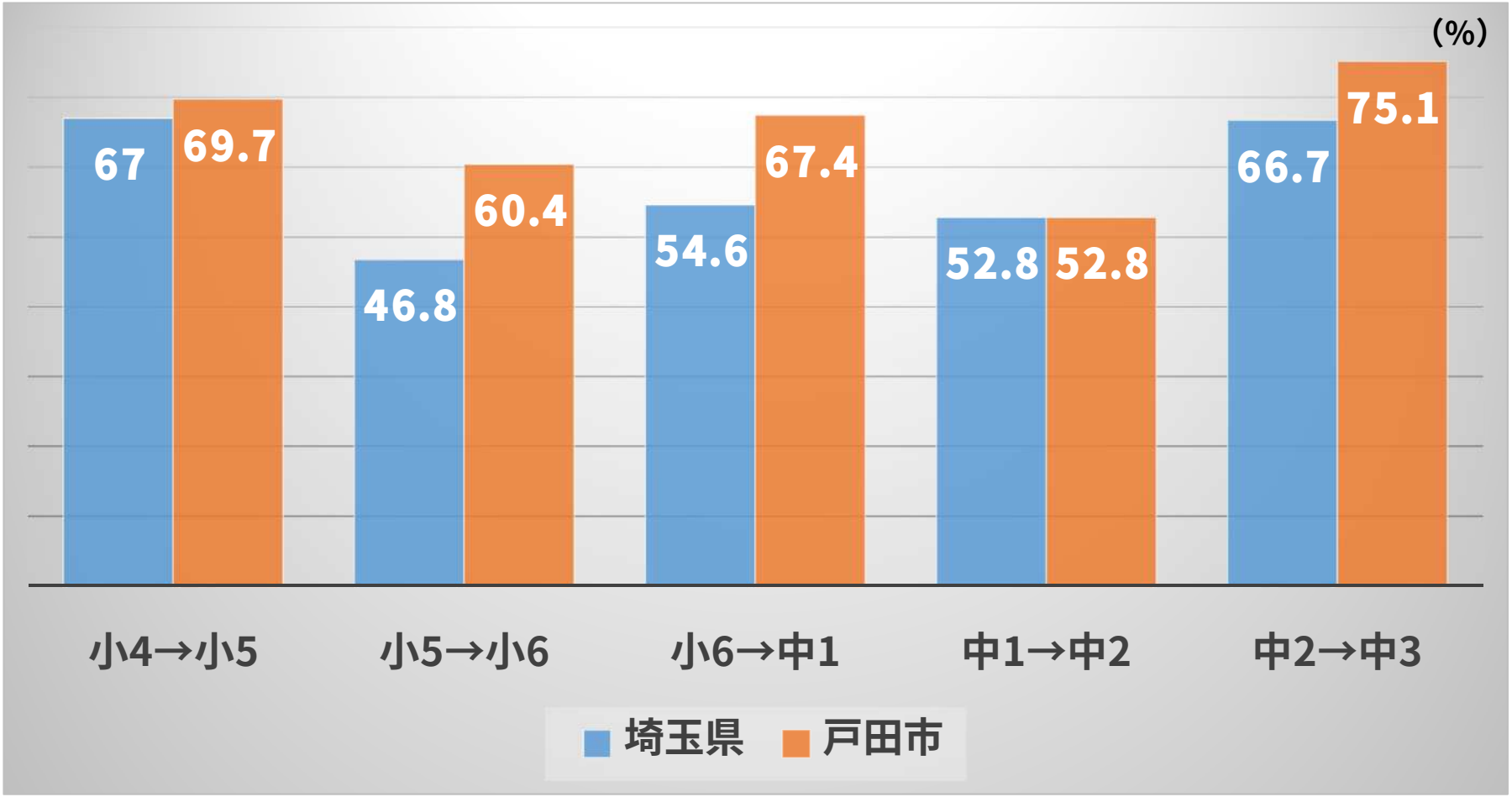
戸田市の子供の学力の経年変化について

R1～R6の学力のレベルの推移



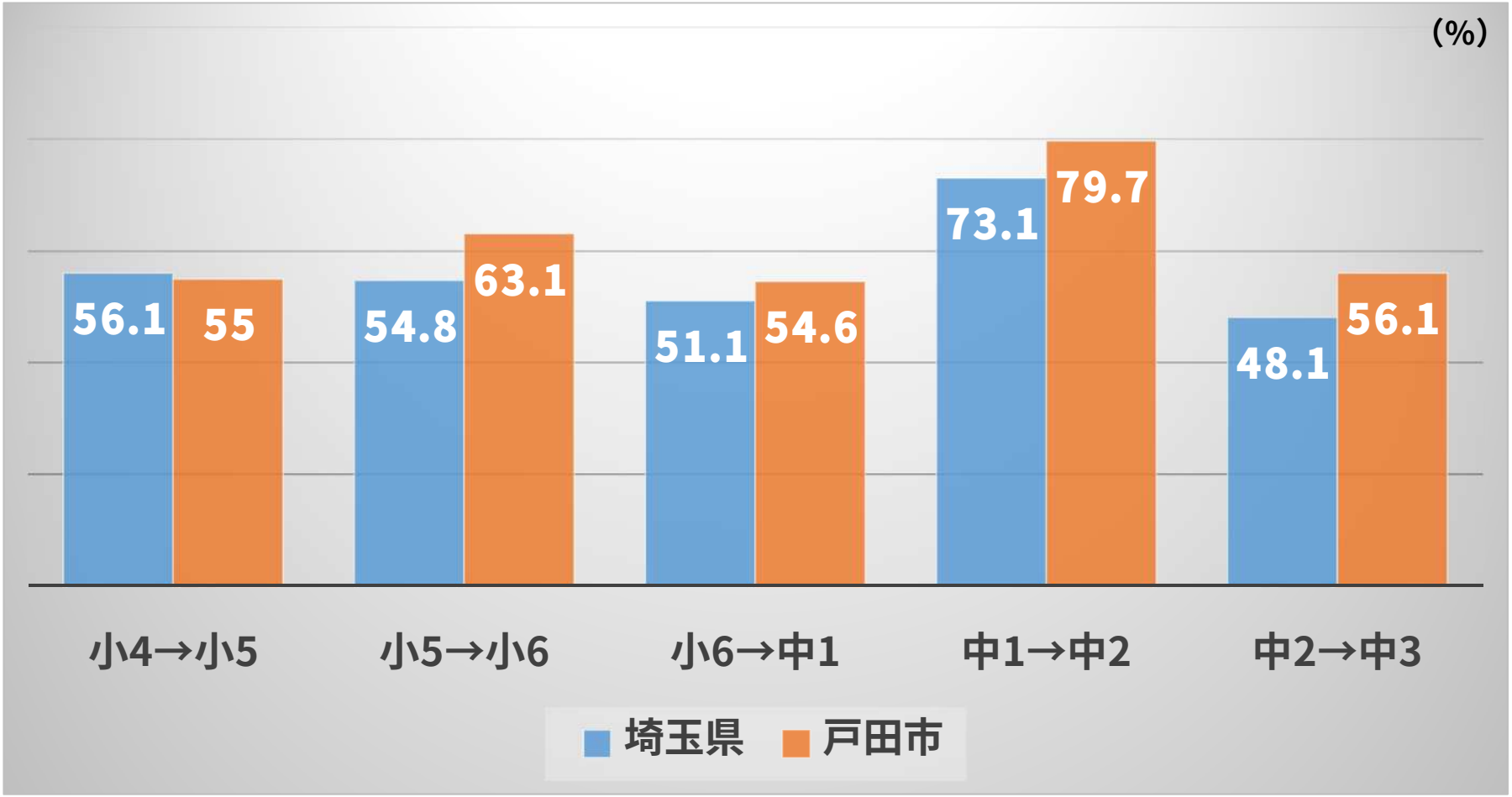
戸田市の子供の学力の伸びについて

R6 学力を伸ばした児童生徒の割合（国語）



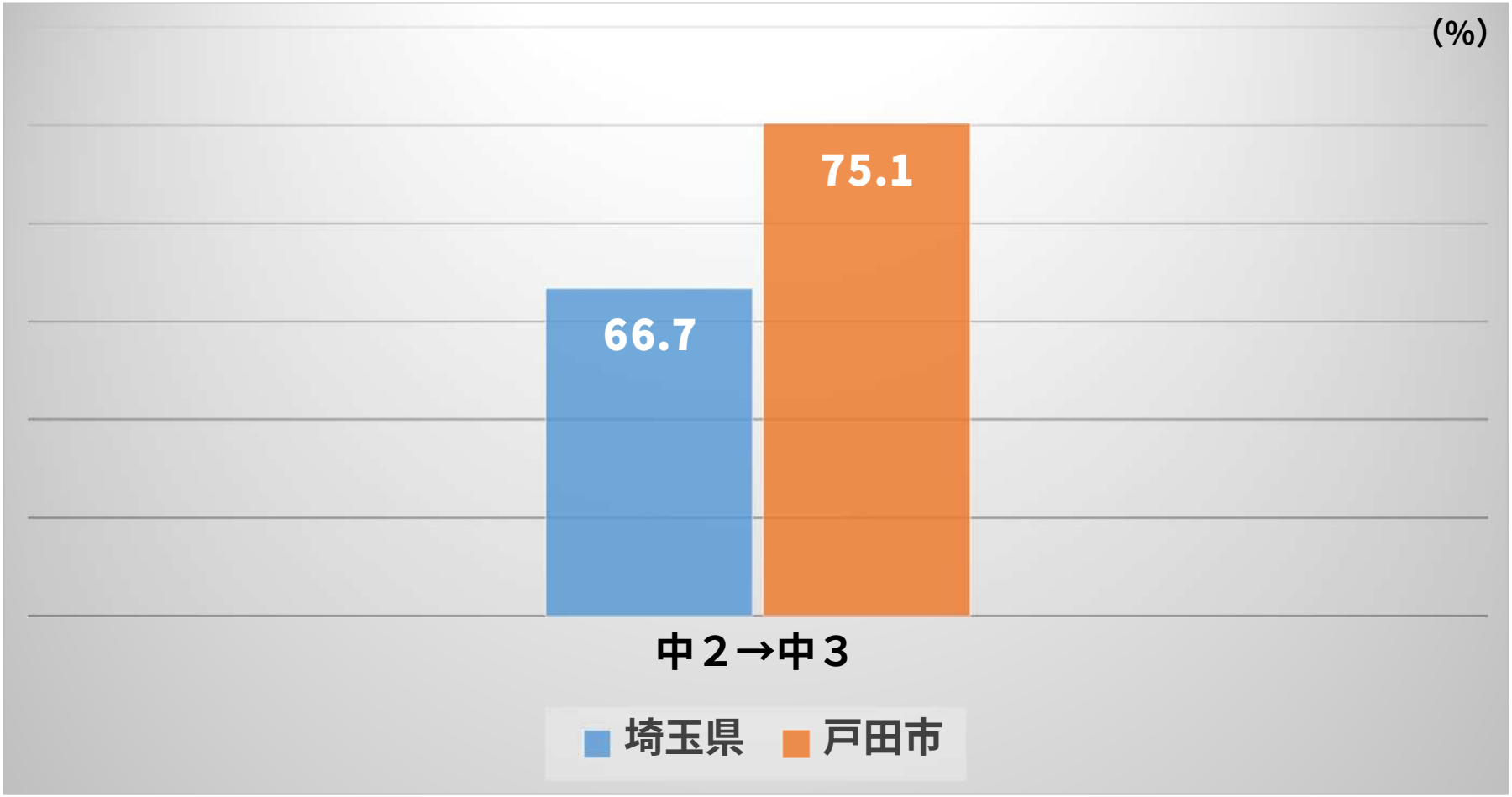
戸田市の子供の学力の伸びについて

R6 学力を伸ばした児童生徒の割合（算数・数学）



戸田市の子供の学力の伸びについて

R6 学力を伸ばした児童生徒の割合（英語）



戸田市の子供の学力の伸びの状況について

【学力のレベルの経年変化】

- ✓ ほぼ全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。

【学力を伸ばした児童生徒の割合】

- ✓ 国語では、約60%以上の児童生徒に学力の伸びが見られる。特に、中３では約75%の生徒が学力を伸ばしている。
- ✓ 算数・数学では、約50%以上の児童生徒に学力の伸びが見られる。特に、中２では約80%の生徒が学力を伸ばしている。
- ✓ 英語では、約75%の生徒に学力の伸びが見られる。

埼玉県学力・学習状況調査を活かした取組①

【結果を子供に還元する】

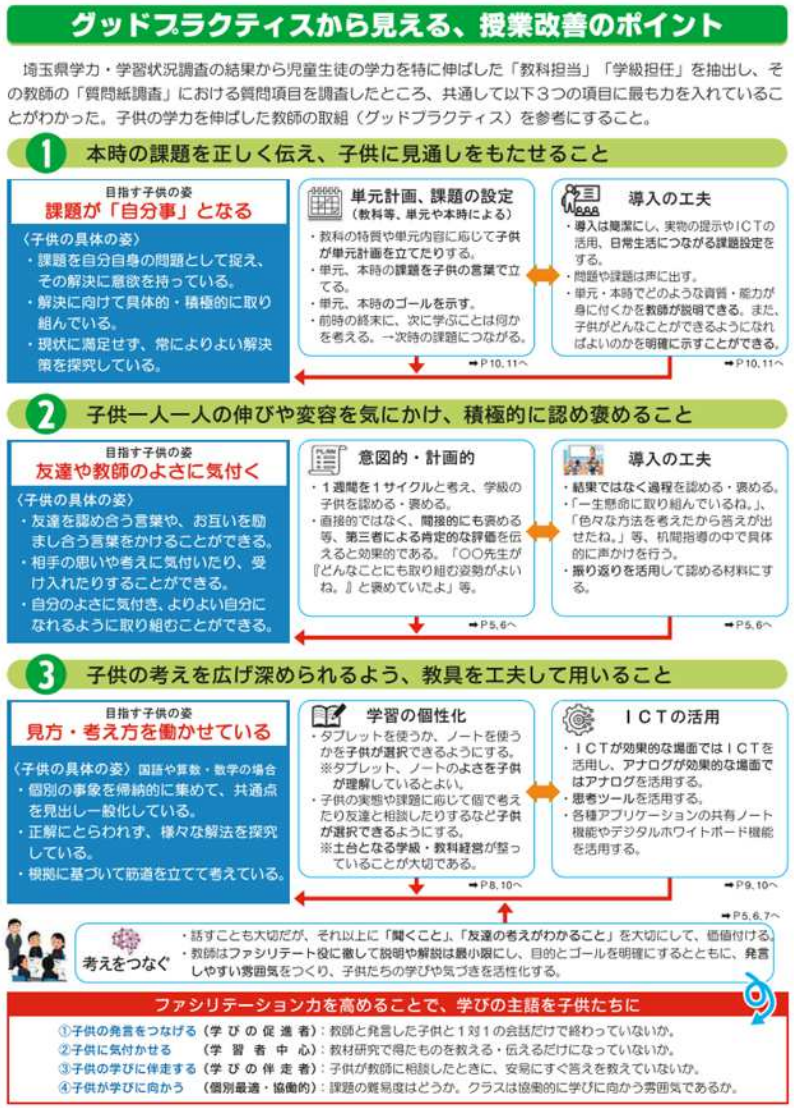
- ✓ 市内各小・中学校で県学調の分析を実施
- ✓ 個々の児童生徒の伸び、学習方略を確認
- ✓ 伸びていない児童生徒への支援策を検討・計画







埼玉県学力・学習状況調査を活かした取組②



グッドプラクティスから見える、授業改善のポイント

埼玉県学力・学習状況調査の結果から児童生徒の学力を特に伸ばした「教科担当」「学級担任」を抽出し、その教師の「質問紙調査」における質問項目を調査したところ、共通して以下３つの項目に最も力を入れていることがわかった。子供の学力を伸ばした教師の取組（グッドプラクティス）を参考にすること。

① 本時の課題を正しく伝え、子供に見通しをもたせること

目指す子供の姿
課題が「自分事」となる

〈子供の具体の姿〉
- 課題を自分自身の問題として捉え、その解決に意欲を持っている。
- 解決に向けて具体的・積極的に取り組んでいる。
- 現状に満足せず、常によりよい解決策を探究している。

単元計画、課題の設定（教科等、単元や本時による）
- 教科の特質や単元内容に応じて子供が単元計画を立てたりする。
- 単元、本時の課題を子供の言葉で立てる。
- 単元、本時のゴールを示す。
- 前時の終末に、次に学ぶことは何かを考える。→次時の課題につながる。

➡P10、11へ

導入の工夫
- 導入は簡潔にし、実物の提示やＩＣＴの活用、日常生活につながる課題設定をする。
- 問題や課題は声に出す。
- 単元・本時でどのような資質・能力が身に付くかを教師が説明できる。また、子供がどんなことができるようになればよいのかを明確に示すことができる。

➡P10、11へ

② 子供一人一人の伸びや変容を気にかけ、積極的に認め褒めること

目指す子供の姿
友達や教師のよさに気付く

〈子供の具体の姿〉
- 友達を認め合う言葉や、お互いを励まし合う言葉をかけることができる。
- 相手の思いや考えに気付いたり、受け入れたりすることができる。
- 自分のよさに気付き、よりよい自分になれるように取り組むことができる。

意図的・計画的
- １週間を１サイクルと考え、学級の子供を認める・褒める。
- 直接的ではなく、間接的にも褒める等、第三者による肯定的な評価を伝えると効果的である。「○○先生が『どんなことにも取り組む姿勢がよいね。』と褒めていたよ」等。

➡P5、6へ

導入の工夫
- 結果ではなく過程を認める・褒める。
- 「一生懸命に取り組んでいるね。」、「色々な方法を考えたから答えが出せたね。」等、机間指導の中で具体的に声かけを行う。
- 振り返りを活用して認める材料にする。

➡P5、6へ

③ 子供の考えを広げ深められるよう、教具を工夫して用いること

目指す子供の姿
見方・考え方を働かせている

〈子供の具体の姿〉国語や算数・数学の場合
- 個別の事象を帰納的に集めて、共通点を見出し一般化している。
- 正解にとらわれず、様々な解法を探究している。
- 根拠に基づいて筋道を立てて考えている。

学習の個性化
- タブレットを使うか、ノートを使うかを子供が選択できるようにする。
※タブレット、ノートのよさを子供が理解しているとよい。
- 子供の実態や課題に応じて個で考えたり友達と相談したりするなど子供が選択できるようにする。
※土台となる学級・教科経営が整っていることが大切である。

➡P8、10へ

ＩＣＴの活用
- ＩＣＴが効果的な場面ではＩＣＴを活用し、アナログが効果的な場面ではアナログを活用する。
- 思考ツールを活用する。
- 各種アプリケーションの共有ノート機能やデジタルホワイトボード機能を活用する。

➡P9、10へ

➡P5、6、7へ

考えをつなぐ
- 話すことも大切だが、それ以上に「聞くこと」、「友達の考えがわかること」を大切にして、価値付ける。
- 教師はファシリテート役に徹して説明や解説は最小限にし、目的とゴールを明確にするとともに、発言しやすい雰囲気をつくり、子供たちの学びや気づきを活性化する。

ファシリテーションカを高めることで、学びの主語を子供たちに

①子供の発言をつなげる（学びの促進者）：教師と発言した子供と１対１の会話だけで終わっていないか。
②子供に気付かせる（学習者中心）：教材研究で得たものを教える・伝えるだけになっていないか。
③子供の学びに伴走する（学びの伴走者）：子供が教師に相談したときに、安易にすぐ答えを教えていないか。
④子供が学びに向かう（個別最適・協働的）：課題の難易度はどうか。クラスは協働的に学びに向かう雰囲気であるか。

戸田市【令和6年度指導の重点・主な施策】から抜粋

https://www.toda-c.ed.jp/uploaded/attachment/20403.pdf

【結果を授業改善に活かす】

子供の学力を伸ばした教師の取組に注目

①児童生徒の学力を特に伸ばした「教科担当」「学級担任」を抽出

②①の教師から、取組を聞き取り調査

③効果的な取組を市全体で共有を図る

埼玉県学力・学習状況調査を活かした取組③

【認知的方略を生かした取組例】

- 認知的方略が高い集団には、話合いや発表する場を多く設定することで、より学習内容を定着させる。
- 認知的方略に課題が見られる集団には、発表内容のヒントカードを用意することで、より学習内容を定着させる。

認知的方略

より自分の理解度を深めるような学習活動

＜状況＞

勉強した内容を自分の言葉で理解するなど



埼玉県学力・学習状況調査を活かした取組④

【学習状況を把握した個別の支援】

・県学調の数値をもとに、日頃の学習の成果を価値づける。

・不得意な科目・領域について、伸びを認め、本人の学習意欲の向上につなげる。

・経年の変化で伸びが見られない領域においては、つまずきの原因を探り、個に応じた指導につなげる。



埼玉県学力・学習状況調査を活かした取組⑤

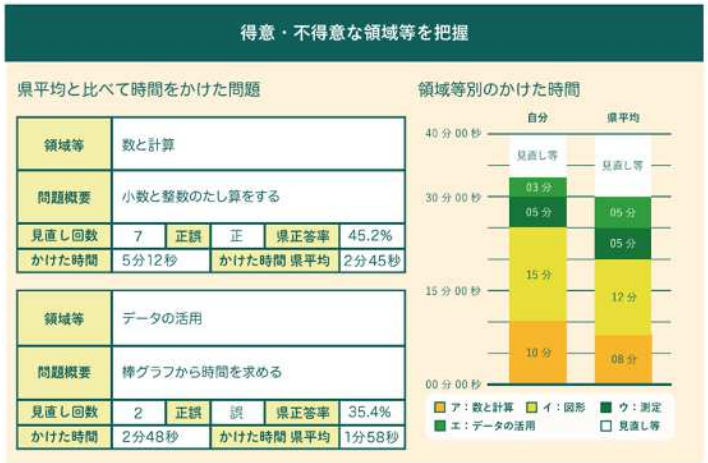
【県学調復習シートを活用した課題の克服】

・県HP掲載の**復習シートを活用しながら、個々の苦手分野を伸ばす**。AIドリル等も活用し、指導の個別化を図る。

【個人結果票の返却】

・個人の伸びや正答状況を**面談を通して、本人・保護者に伝達**し、家庭との連携を図る。





引用元：https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/52863/r6kengakucho_leaflet_omote.pdf